

専門分野

- ▷ 英語法助動詞の意味論・語用論
- ▷ 英語の心理動詞の派生形の意味・語用論

研究概要

約10年前までは、英語の法助動詞の周辺的な使い方について研究をしています。たとえば、must であれば Men must die. (人は死ぬものだ)のように、must のよく知られる2つの意味(「...しなければならない」や「...に違いない」)とは少し違う意味を表す使い方です。will であれば Dogs will bark. (犬は泣くものだ)や、should であれば It's surprising that Tom should come to the party. (トムがパーティに来るなんて驚きね)のような、一見、どんな意味を伝えているのだらうと思うような使い方に興味があります。このような英語法助動詞の不思議な使い方が、どのような文脈や出来事であれば、可能であるのかを研究していました。

近年は、英語の doing 形や done 形の心理形容詞を研究しています。典型的な心理形容詞には、surprising や surprised などが有り、この2つの形式の形容詞には世間でよく知られた使い分けのルールが在ります。しかし、実はこのルールに反する事例があり、そのようなものを対象に研究しています。

英語教育の面では、高校英語の英文法をわかりやすく教えることや、初心者対象に TOEIC の講義をすることを得意としています。

趣味など

- ▷ 計画を立て旅行をすること

キーワード

- ▷ 総称文
- ▷ 多義
- ▷ 英文法
- ▷ TOEIC
- ▷ 英語の法助動詞
- ▷ 義務的・認識の意味
- ▷ 感情的な形容詞
- ▷ 心理動詞の派生形

お役に立てそうなこと

- ▷ TOEIC、GTEC for Students の講座
- ▷ 英文法の講座

杉山 桂子

(SUGIYAMA Keiko)

一般科 准教授 (英語)

(博士 (言語学))

研究室ホームページ

<https://www.oyama-ct.ac.jp/G/kyouin/kyouin2019/sugiyama.html>

